



歴史との共生

新町地区街なみ環境整備事業



漆 喰塗りの壁や虫籠窓、格子の家々が立ち並ぶ新町通りは、古くから大阪と紀伊を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には伊勢街道として賑わいをみせました。400年が経過した現在でも新町には、日本最古の民家「栗山家住宅」(国の重要文化財に指定)をはじめ江戸時代から明治にかけて建てられた古い町家が数多く残っており、当時の面影を現在に残しています。

しかしその街なみは、生活様式の変化などにより、建築物の伝統的様式が失われつつありました。それらの街なみを守り、後世に残していくための取り組みとして、平成9年から五條市新町地区街なみ環境整備事業を実施しました。

街 なみ環境整備事業は国土交通省による住環境事業のひとつで、道路や公園・集会所、防災施設などの整備改善と、景観の保護、調和を目的としています。

新町地区は平成9年度に国土交通大臣(当時の建設大臣)の認可を受け、道路の美化や電柱の移設など、生活環境と景観の一体的な整備に取り組んできました。

